

総合計画との対応や前回会議でのご意見等を踏まえた新庁舎のコンセプトについて

1. 総合計画の構成

仙台市基本構想

(21世紀半ばを展望した市政運営の指針・目指す都市像)

仙台市基本計画 (H23～32年度の取り組みや目標) ※1

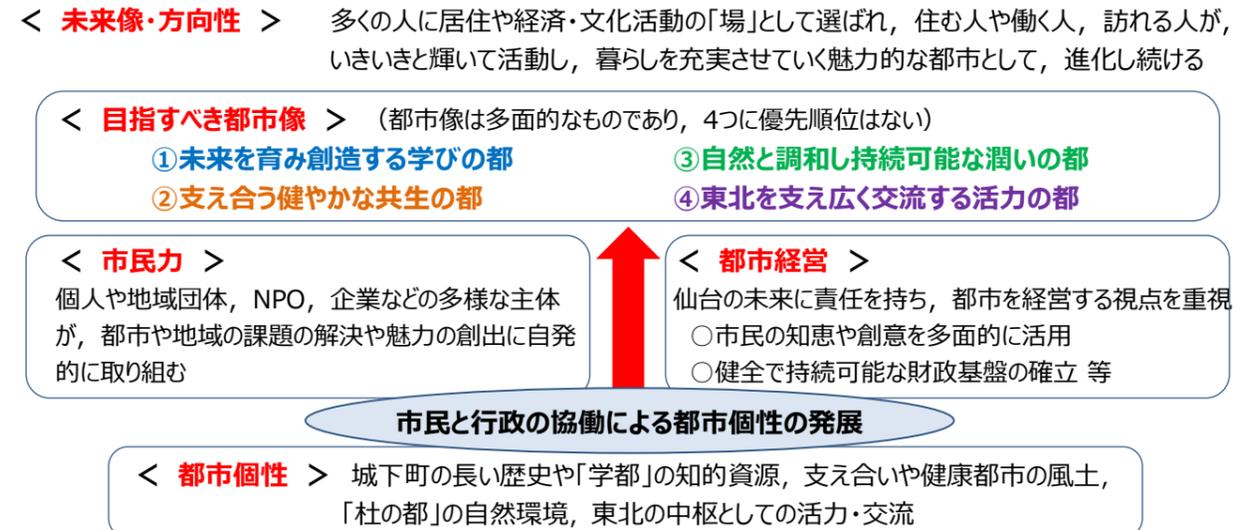
仙台市実施計画 (概ね3年間の行動計画と指針)

仙台市総合計画は左図のように、基本構想・基本計画・実施計画により構成されており、仙台市基本構想がその根本に位置付けられている。

(平成23年3月15日付で市議会にて議決)

※1 平成27年度までは、仙台市基本計画を補完するものとして仙台市震災復興計画があり、震災後の市の取り組み等が示されていた。

2. 仙台市基本構想の概要



< 目指すべき都市像 > の詳細

① 未来を育み創造する学びの都 - 未来につなぐ多様な価値や個性を創り続ける輝く学都 -

- 学びの場にあふれ、生涯にわたり楽しく学ぶことで市民力が広がり、一人ひとりの心の豊かさにつながるまち
- 世界中から人材や情報が集まり、知的資源の集積と交流から新たな価値を生み出すまち
- 未来を担う子どもや若者が学びを通じて心豊かに成長し、社会に羽ばたく力を伸ばすまち
- 城下町の歴史的資産や伝統のもとに、創造的な文化風土を育み、世界性を持つ都市の個性が息づくまち

② 支え合う健やかな共生の都 - やすらぎに満ち、心豊かな暮らしを支える安心・健康都市 -

- 誰もが健やかに生涯にわたって生きがいを持ち、自立して豊かな生活を送ることができるまち
- 安心して子どもを産み育てることができ、すべての子どもたちが健やかに育つことを社会全体で応援するまち
- すべての市民が人間の尊厳を大切に、多様性を認め合いながら、能力を発揮することができ、一人ひとりが尊重されるまち
- 災害への十分な備えがなされ、互いに支え合い、安全に安心して暮らすことができるまち

③ 自然と調和し持続可能な潤いの都 - 低炭素型の都市システムを持ち、魅力的で暮らしやすい杜の都 -

- 環境負荷の小さい都市の構造を持ち、市民生活や経済活動の中に低炭素・資源循環の仕組みが備わるまち
- 公共交通を中心とした利便性の高い交通体系のもと、郊外の良好な生活環境を維持しながら都心や拠点に高度な機能を集約した、誰もが快適に暮らし活動できるまち
- 多様な生態系や潤いと恵みに満ちた豊かな自然に包まれ、緑と水のネットワークや杜の都の文化風土を継承する個性的な都市景観がやすらぎを醸し出す美しいまち
- 里山や田園が保全活用され、農林業の多面的な機能を都市の力に生かすまち

④ 東北を支え広く交流する活力の都 - 魅力と活力にあふれ、世界とつながる中枢都市 -

- 活力に満ちた産業活動が展開され、多様な雇用の機会を創り出すまち
- 産学官民の連携により付加価値の高い産業が広がり、創造的な人材をひきつけるまち
- 多彩で独自性のある都市の魅力が創られ、賑わいと活力に満ちたまち
- 高次の都市機能を持ち、アジアをはじめとした世界と交流し、東北の自立的発展を支えるまち

3. 新庁舎のコンセプト (下線部は前回会議にて具体的ご意見としていただいた主なもの)

【共通理念】

- 「市民」を中心に位置付けたもの。
- 時間軸(過去、現在、未来、等)や状況(平常時、災害時、等)を考慮したもの。

仙台市基本構想の < 未来像・方向性 > < 市民力 > < 都市経営 > との関わりが強い

【災害対応・危機管理】

- 「東日本大震災の被災経験」「災害時における庁舎の役割」「子どもたちへの防災教育」等の視点。
- 例：災害対策本部の復旧や機能の強化、免震装置等の実物の見学、等。

仙台市基本構想の < 目指すべき都市像：①学びの都・②共生の都 > と、「仙台防災枠組2015-2030」及び「仙台宣言」の意義 ※2 との関わりが強い

→ 仙台らしさ(案)：東日本大震災の教訓を踏まえた災害リスク軽減への取り組み

【まちづくり(賑わい・協働)】

- 「まちの賑わい」「親しみやすさ」「幅広い協働」「地域理解の促進」等の視点。
- 例：イベントスペース等の設置、多様な主体が集い、共に地域課題に取り組むスペースや機能の配置、

仙台市基本構想の < 目指すべき都市像：①学びの都・④活力の都 > との関わりが強い

→ 仙台らしさ(案)：東北の中核としての活力、盛んな市民活動や学び

【利便性・環境配慮】

- 「利用者の分かりやすさ・使いやすさ」「低炭素化の取り組み」「都市景観との調和」等の視点。
- 例：分散する事務室等の集約、来庁時の交通環境(アクセス)の改善、言語等の多様性への配慮、ユニバーサルデザイン、環境配慮技術・再生可能エネルギーの活用、敷地の緑化、等。

仙台市基本構想の < 目指すべき都市像：②共生の都・③潤いの都 > との関わりが強い

→ 仙台らしさ(案)：杜の都の緑(自然との調和)

【持続性(経済性・生産性・柔軟性)】

- 「維持管理を含むライフサイクルでのコスト削減」「職員の働き方や庁舎の使い方の変化」「長寿命化」等の視点。
- 例：設備の大規模修繕や施設そのものを含む更新への考慮、ICT技術の活用、セキュリティの確保、ワークプレイスの再構築、将来的な変化への柔軟な対応、等。

仙台市基本構想の < 都市経営 > との関わりが強い

仙台市基本構想の基礎となっており、普遍性が高いと考えられる < 都市個性 > を基に、新庁舎のコンセプトごとに、対応すると考えられる「仙台らしさ」を示した。

※2 平成27年3月に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議にて、防災分野で2030年までに世界が目指す方針として「仙台防災枠組2015-2030」が、同枠組を推進する決意の表明として「仙台宣言」が採択された。同枠組では、災害リスクの理解等の「4つの優先行動」と、2030年までに地球規模での災害死者数を実質的に減らす等の「7つのターゲット」が示されている。